



株式会社谷ファーム

2021 年度 環境経営レポート

(対象期間 2020 年12月1日～ 2021 年11月30日)



作成日： 2022年1月31日

目 次

項 目	ページ
目次	1
環境経営方針	2
組織の概要	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	4
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	5～8
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反・訴訟等の有無	8
緊急事態対応訓練	9
代表者による全体の評価と見直し・指示	9

株式会社谷ファーム 環境経営方針

<環境経営理念>

株式会社谷ファームは環境保全の重要性を深く認識し、産業廃棄物を再生利用した肥料製造と販売及びその収集運搬事業に加え、農業事業の活動を通じて、循環型社会の構築と地域農業の発展と環境維持に貢献する。

<環境保全への行動指針>

1. 事業活動における環境負荷を認識し、継続的な環境経営システムの改善と環境負荷の低減に努める
2. 環境に関する法令、条例及び当社が受け入れた利害関係者の要求事項を遵守する
3. 環境負荷の低減を図るため、以下の項目ごとに環境経営目標及び環境活動計画を策定し、改善活動を推進するとともに各年度の活動計画結果等をもとに見直しを行う
 - ①肥料製造事業と農業事業における省エネと省資源化に取組み、二酸化炭素排出量を削減する
 - ②肥料製造事業による廃棄物の再資源化を推進するとともに、事業活動における省資源化に取組み廃棄物排出量を削減する
 - ③事業活動における総排水量の削減に取組む
 - ④事業活動における化学物質使用の適正維持管理に取組む
 - ⑤環境に配慮した肥料製造事業を推進する
 - ⑥農業事業を通じ、地域環境保全と再生製品の出荷向上を図る
4. 当社の全従業員はこの方針を認識し、構築した環境経営システムを有効に活用する
5. この方針は全従業員に周知するとともに、一般にも公開する

制定日：2008年3月31日

改定日：2020年5月1日

代表取締役 **谷 佳樹**

尚、改定日についてはコロナ禍により審査時期を変更したためのものです。

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社谷ファーム
代表取締役 谷 佳樹

(2) 所在地

【本 社】 岡山県勝田郡勝央町植月北961番地1
【農業部門】 同上
【奈良支店】 奈良県御所市大字蛇穴406番地の1

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 取締役 : 矢山 保 TEL : 0868-38-1088 FAX : 0868-38-1066
E A 2 1 事務局 取締役 : 矢山 保 TEL : 0868-38-1088 FAX : 0868-38-1066

(4) 現在の認証・登録範囲（全組織・全活動）

登録組織名 : 株式会社谷ファーム

対象事業所 : 本社

【産業廃棄物収集運搬業】汚泥及び動植物性残渣（有機性汚泥及び植物性残渣に限る）の2種
【産業廃棄物中間処理業：肥料製造及び販売】汚泥・木くず・動植物性残渣・動物のふん尿の4種
【農産物の栽培及び販売業】米・野菜・葡萄等

(5) 事業の規模

法人設立 1990年12月25日
資本金 1000 万円
売上高 15007 万円（2020/12/1～2021/11/30）

	本社			
社員	7	名		
パート・アルバイト	9	名	合計	16 名

中間処理施設

施設の種類の	有機肥料の製造施設
保管施設の容量	450 m ³
許可年月日	平成4年12月25日
許可番号	第 3329051899 号
処理方法	切返し機による発酵処理
処理能力	90 t / 日

受託した産業廃棄物の処理量（2020/12/1～2021/11/30）

収集運搬量	287.39 t
中間処理量	10,294.99 t

収集運搬車両	台数	被災・流出・悪臭に対する防止措置の方法
脱着装置付 コンテナ専用車	2 台	コボレーンを使用し、二重にシートを掛け運搬する荷台部にはゴムパッキンを施し、零漏れを防止する

設備の概要

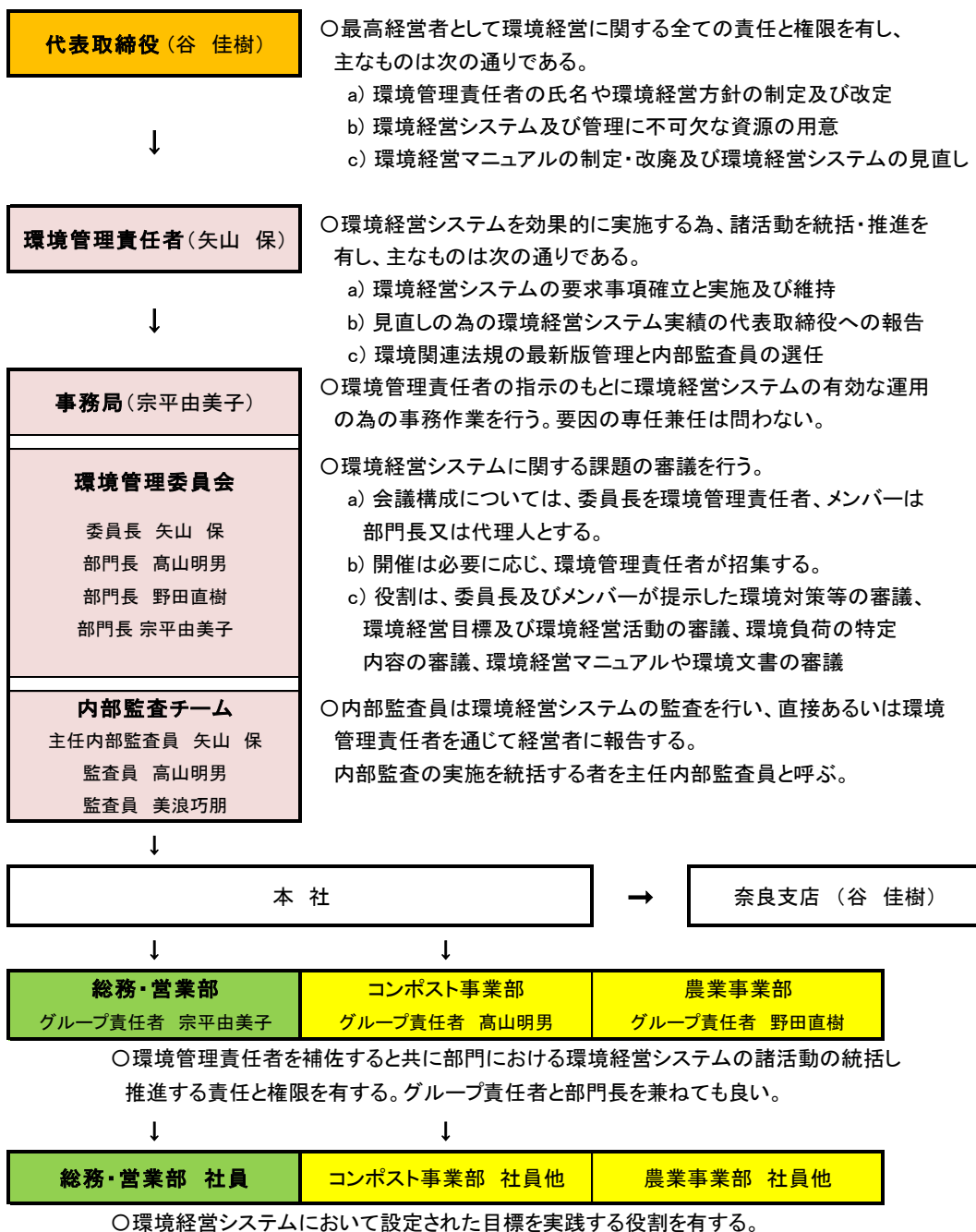
原料破碎混合設備	自動切替し装置	選別装置
スクラパー	トラックスケール	自動袋詰め設備

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

当社の実施体制と役割・責任・権限等を以下の図に示します。

令和3年1月19日現在

環境経営システムの実施体制図と役割



□主な環境負荷の実績

項 目	単 位	2019年	2020年	2021年
二酸化炭素総排出量 (電力)	kg-CO ₂	247,817	228,365	208,768
(化石燃料)	kg-CO ₂	125,775	119,168	117,968
受託収集運搬量	t	255.25	250.58	287.39
受託中間処理量	t	10,893.01	10,014.22	10,294.99
廃棄物排出量の削減 (紙使用量)	kg	13.0	12.3	11.9
(製品肥料の出荷量)	t	1991.83	2,324.43	2,212.37
環境に配慮したコンポスト事業 (肥料散布サービス)	件	148	122	63
総排水量	m ³	541.5	678.5	511.5

※二酸化炭素排出係数 0.636 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

□環境経営目標及びその実績

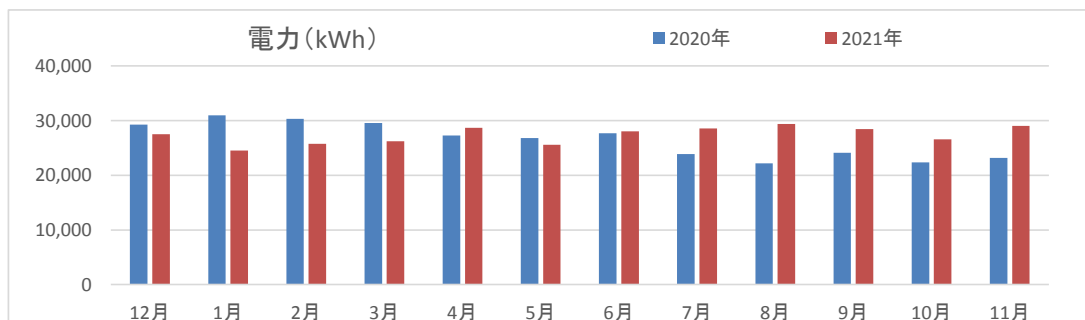
項目	年度	基準値	2021年		評価	2022年	2023年
		2020年	上段：通期	下段：5月末まで			
		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
二酸化炭素排出量の削減 電力使用量の削減	kg-CO2	247,810	240,376	208,768	○	239,137	237,898
	5月末累計	125,261	121,503	100,628	○	-	-
	基準年度比		97.0%	86.9%		96.5%	96.0%
二酸化炭素排出量の削減 石油燃料使用量の削減	kg-CO2	119,168	115,593	117,968	×	121,551	120,922
	5月末累計	63,735	61,823	61,826	×	-	-
	基準年度比		97.0%	102.1%		96.5%	96.0%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO2	366,978	355,969	326,737		360,688	358,819
廃棄物排出量の削減 再資源化の推進 製品出荷量の増加	kg	1,940.00	1,998.20	2,212.37	○	2,017.60	2,037.00
	5月末累計	1,128.53	1,162.39	918.31	×	-	-
	基準年度比		103.0%	110.7%		104.0%	105.0%
廃棄物排出量の削減 紙使用量の削減	kg	13.3	12.9	11.9	○	12.8	12.6
	5月末累計	6.1	-	6.0	○	-	-
	基準年度比		97.0%	92.2%		96.5%	96.0%
総排水の削減 上水使用量の削減	m ³	678.5	658.1	511.5	○	522.1	519.4
	5月末累計	417.0	404.5	306.5	○	-	-
	基準年度比		97.0%	77.7%		96.5%	96.0%
環境に配慮したコンポスト事業の推進	件	122	151	63	×	152	154
	5月末累計	86	-	53	×	-	-
	基準年度比		123.7%	41.7%		103.0%	104.0%
地域耕作放棄地の削減	m ²	131,000	133,620	133,600	×	134,930	136,240
	基準年度比		102.0%	100.0%	×	103.0%	104.0%

□環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標：○達成 ×未達成

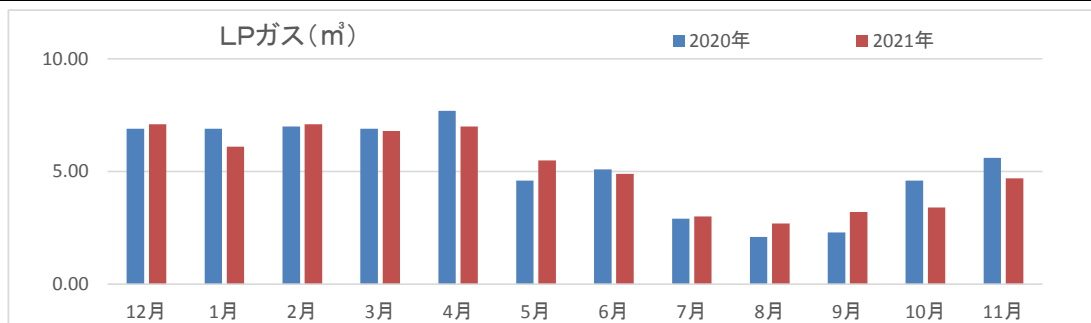
活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

二酸化炭素排出量の削減電力使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	
・肥料製造設備の整備と適宜更新	◎	肥料製造設備の整備を中心に稼働条件の変更などに現場サイドが検討した結果として評価できる。 次年度も引き続き協議検討と実行を念頭に活動する。
・空調の抑制使用 冷房28℃ 暖房23℃	○	
・不要な照明、空調のカット	○	
・電気機器の稼働、使用に計画性を持つ	○	

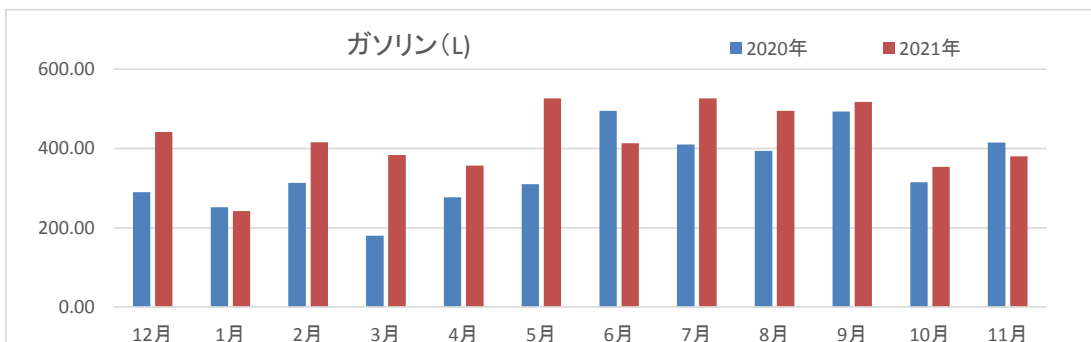


	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2020年	29,271	30,984	30,315	29,552	27,294	26,800	27,707	23,861	22,195	24,099	22,365	23,172
2021年	27,509	24,537	25,722	26,207	28,675	25,570	28,047	28,572	29,388	28,428	26,550	29,047

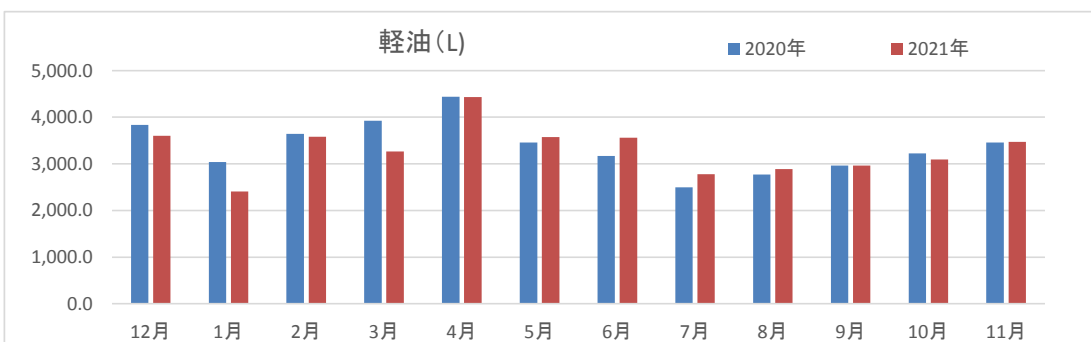
化石燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	燃料の使用コスト削減に対する認識度は確実に向上している。コンポスト部門については作業内容の運用条件などを変えて実務を行った結果、重機などの稼働時間が多くなったことが原因。農業部門についても農機具の稼働時間や台数が多くなったこともあり、この点を改善するよう活動する。
・急発進、急加速、アイドリングの抑制	○	
・車両整備による燃費の向上をはかる	○	
・適切な配車による効率的な運転の推進	○	
・燃費効率の良い機械、車両の使用	○	



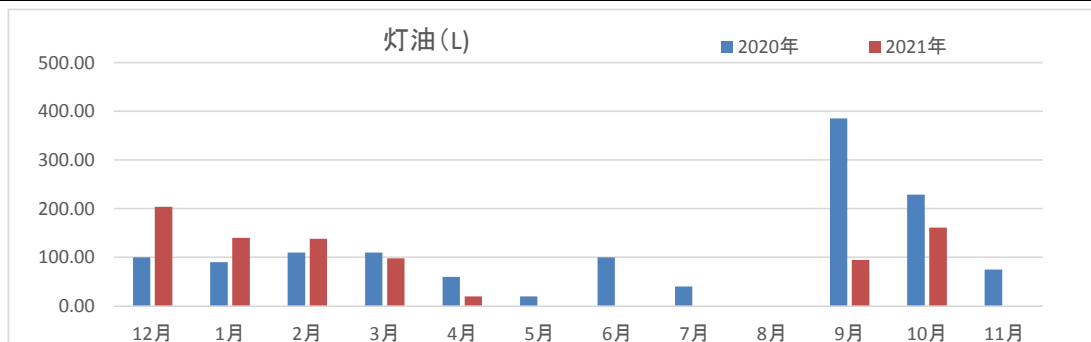
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2020年	6.90	6.90	7.00	6.90	7.70	4.60	5.10	2.90	2.10	2.30	4.60	5.60
2021年	7.10	6.10	7.10	6.80	7.00	5.50	4.90	3.00	2.70	3.20	3.40	4.70



	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2020年	289.34	252.08	313.09	180.09	276.94	309.79	494.35	409.68	393.64	492.64	314.80	414.76
2021年	441.65	241.81	415.60	382.87	356.46	525.82	413.12	526.39	494.91	516.91	353.17	379.78

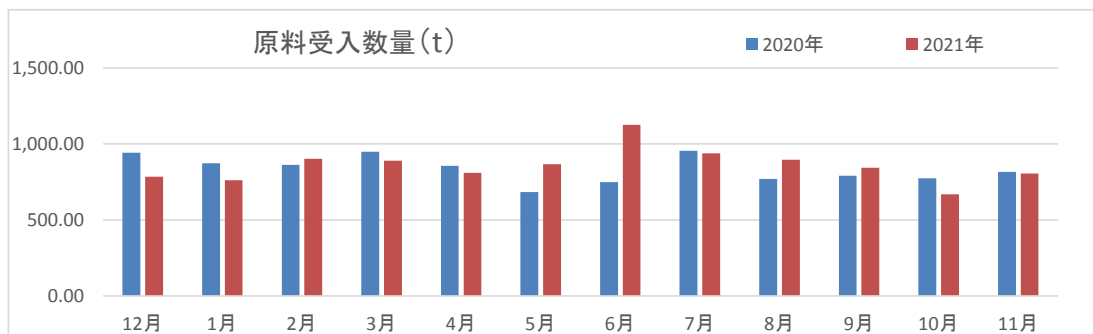


	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2020年	3,834.6	3,038.0	3,641.0	3,927.3	4,441.0	3,459.0	3,170.0	2,496.0	2,768.0	2,961.0	3,225.0	3,460.2
2021年	3,598.0	2,405.0	3,578.0	3,263.0	4,432.0	3,576.0	3,559.0	2,775.0	2,889.0	2,963.0	3,096.0	3,468.2

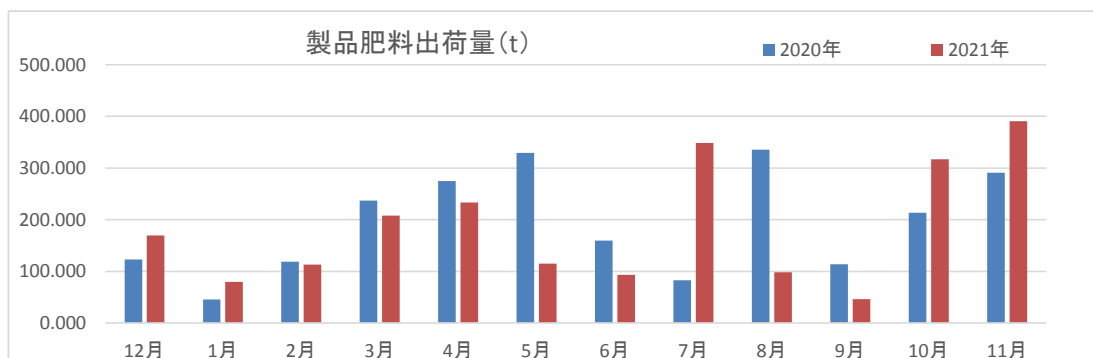


	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2020年	100.00	90.00	110.00	110.00	60.00	20.00	100.00	40.00	0	385.00	229.00	75.00
2021年	204.00	140.00	138.00	98.00	20.00	0	0	0	0	95.00	161.04	0.00

廃棄物の再資源化の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	製品販売の軸となる農家減少を自社圃場での消費でカバーする形態は順調に推移した。次年度は農家での販促に加えてメーカーでの営業など範囲を広げて活動する。
・製品販売の促進により再資源化を推進	△	
・自社圃場での消費により再資源化を推進	○	

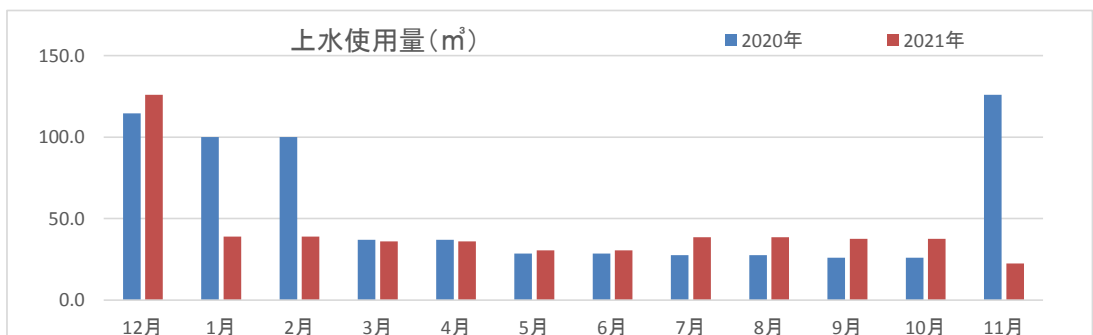


	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2020年	942.20	873.88	861.80	949.98	855.56	684.62	749.13	955.18	770.44	790.60	774.76	816.23
2021年	785.63	761.20	903.59	889.88	811.00	866.32	#####	938.73	895.39	843.12	669.25	805.91



	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2020年	123,040	45,520	118,760	237,180	274,620	329,410	159,650	82,540	335,770	113,510	213,560	290,870
2021年	169,670	79,650	113,320	207,610	233,494	114,570	93,216	348,460	98,450	46,354	317,100	390,474

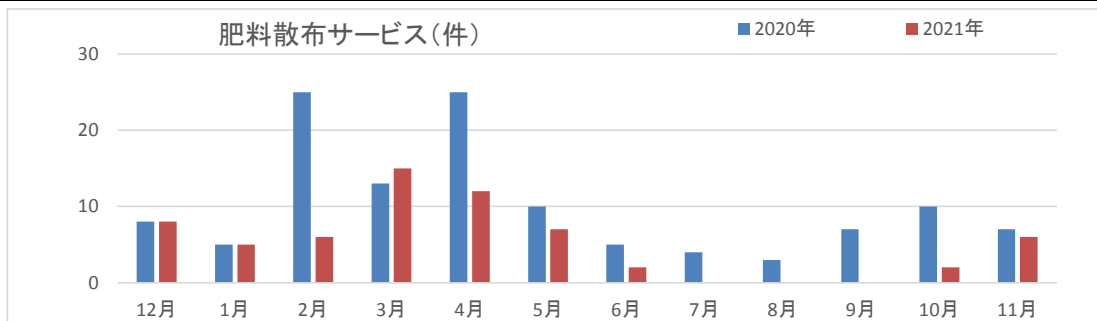
上水使用量の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	安定して目標に沿った運営ができた。漏水などのトラブル回避に手段を講じるなど注視する。
・上水利用削減のため農業用水の利用を促進	◎	
・工場敷地内での作業用水は雨水利用を徹底	△	
・水道配管からの漏水を定期的に点検	○	



	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2020年	114.5	100.0	100.0	37.0	37.0	28.5	28.5	27.5	27.5	26.0	26.0	126.0
2021年	126.0	39.0	39.0	36.0	36.0	30.5	30.5	38.5	38.5	37.5	37.5	22.5

化学物質使用量の適正維持管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	減農薬での栽培方法は変化がなく、総使用量が少ないため、今後も的確に計画に沿って進める。
・適正維持管理手順書の作成、逐次更新	○	
・関係従業員の教育	○	
・使用量を把握し、適正量の設定、維持管理	○	

肥料散布サービス	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	製品販売の主軸となる農家減少を自社圃場での消費でカバーする形態は順調に推移した。次年度は農家での販促に加えてメーカーでの営業など範囲を広げて活動する。
・肥料散布サービスの拡大により環境負荷低減製品の販売促進	○	
・事務局により最新の公害防止技術環境保全技術に関する情報の収集・整理	○	



	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
2020年	8	5	25	13	25	10	5	4	3	7	10	7
2021年	8	5	6	15	12	7	2	0	0	0	2	6

地域耕作放棄地の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・地域環境保全の為、耕作放棄地の利用推進	○	計画通りの情報収集と利用権の設定を進めており、今後も計画通りに活動する。
・耕作面積の拡大により再生化した肥料使用量の増加	○	
・地域貢献により産業廃棄物処理業への理解を深める	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
大気汚染防止法	本社建築物：該当する作業なし
エネルギーの使用の合理化等に関する法律(省エネ法)	業務部：7~8月の午後の時間帯に、第2次発酵棟における切返し機の使用を可能な範囲で制限した
自動車N o x ・PM法	業務部：排ガス対策車両の登録と使用
廃棄物処理法	全般：廃棄物処理業の許可・収集運搬業の許可
道路運送車両法	業務部：自動車の登録・車両の保安基準、点検及び整理、検査
消防法	消火器・消火栓設備・自動火災報知設備：消火器の入れ替え(令和3年2月)
家電リサイクル法	全般：該当する廃棄物の処理なし
小型家電リサイクル法	全般：勝央町の実施体制未整備
フロン排出抑制法	全般：該当する廃棄物の処理なし
肥料の品質の確保等に関する法律	業務部：前年生産量等の報告及び管理制度・製品袋に定められた記載事項の添付・販売業務の届出
農薬取締法	業務部・農業部門：農協にて通常販売の農薬使用・使用者の責務に関して問題なし
計量法	トラックスケール：岡山県計量協会による精度確認検査(2年に1回)→次回令和4年
浄化槽法	本社浄化槽：岡山県健康づくり財団検査・技術上の基準に従って保守点検及び清掃の実施(1年に1回)
環境基本法	全般：環境経営システムの取入・廃棄物リサイクルの取組・対策の実施
循環型社会形成促進基本法	全般：廃棄物等の発生抑制、循環資源の利用、適正な処分をE A 21の運用により実践
資源有効利用促進法	全般：ごみの発生抑制、リユース・リサイクルの促進をE A 21の運用により実践
グリーン購入法	全般：再生品などの調達の推進をE A 21の運用により実践
環境教育推進法	全般：環境保全活動、環境教育の自主努力及び教育をE A 21の運用により実践
岡山県環境基本条例	全般：環境保全に関わる責務に関して問題なし
岡山県快適な環境の確保に関する条例	全般：環境経営システムの取入
岡山県環境への負荷の低減に関する条例	全般：環境経営システムの取入
勝央町廃棄物の処理及び清掃に関する条例	全般：廃棄物の適正処理に関して町の対策に協力することをE A 21の運用により実践

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 原料棟での原料の飛散及び流出自	
■実施日：	■実施部署：全部署
■参加者： 矢山・高山・美浪・小坂・高橋・野田 津本・坂手・植月・宗平	■実施内容： ①台風やゲリラ豪雨により原料棟からの原材料の飛散・流出を想定し、対応手順をテストする。 ②原料棟への雨水流入防止を図るための対応訓練
■評価： 繰返し手順を確認することで、類似の事態を含め、迅速確実な対応ができる様にしていきたい。	
■実施状況の様子 緊急事態が発生した想定で、業務従事者による応急対策の模擬訓練を実施した。 ①シャッターの自動手動開閉と不能時の対応 ②土入り土嚢袋の所定場所確認と積込・積上げ作業について ③原材料の飛散・流出が防止できているかの確認作業を周知徹底 → 対応手順書に示す手順に従って作業を行うことで、暴風雨時に原材料の飛散・流出を防止するための作業内容を確認し合った。	
手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

※ 以下のとおり2021年度の見直しを行ったので適正な運用を指示する。

実施日：2021年2月12日

項目	内容	
見直し内容	次の資料や関連情報をもとに、代表者による見直しをおこなった。 ・法的およびその他の要求事項の順守評価結果 ・外部からの苦情等の受け付け結果 ・環境活動計画の実施状況および目標の達成状況 ・内部監査結果 ・是正処置および予防処置の状況 ・業務内容の拡大に伴う変更の必要性	
	環境経営方針の変更の必要性	あり
	環境経営目標及び環境経営計画	あり
	実施体制	あり
指示内容		
総評	<p>● 当該取組を継続してゆく事で従業員の環境に関する全般的な意識の向上については評価できる。今回、2017年度版への移行に伴い、課題となっている未達成項目への協議検討をより内容のあるものにするよう改めて指示をした件についても、実勢に沿った目標設定である事や農業に係る製品出荷量と圃場面積拡張についても地域貢献につながる内容で評価できる。</p> <p>● 近年進めている作業環境の改善についても間接的にでもEA21で取組ができるように中長期的にでも協議検討を始めるよう指示をした。</p>	

【環境管理責任者記入欄】

項目	担当者	内容
是正処置・改善処置	2017年度版への移行について 矢山 保 高山明男 野田直樹 宗平由美子	○2017年度版への移行時期になり、協議や検討を各担当者で進めていたため、とりまとめ協議が予想以上に内容のある議論となり、最良の目標設定・項目となった。経営者からも良い評価を頂き一層精進したい。
	作業環境改善とEA21について 矢山 保	○作業環境の整備は近年経営者からの積極的な提案で周知している。今後EA21にどう組み込みか積極的に協議していきたい。
処置完了日	令和3年 2月12日	
処置完了日確認欄	環境管理責任者記名：	

環境経営方針 変更なし 変更あり
環境経営目標・計画 変更なし 変更あり 実績を踏まえて見直し